自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	部署目標に沿って、分掌表で各自の役割を確認しながら取り組んでいる。職員行動指針を朝会で唱和している。	事業開設から13年目、法人より示された「自ら受けたい医療と福祉の創造」の理念を基に方針5か条と具体化出来るよう、職員の行動指針を定め、朝礼時に職員で唱和している。新人職員に対しては研修を通して理念について学ぶ機会を設け、共有を図りながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェの開催や、地域で実施するクリーン作戦や納涼祭・お祭りなど必ず参加し、地域の方々からもお誘いを頂いている。	事業所は地域との繋がりを大切に地域貢献活動に力を入れている。地元の防災訓練への参加、地域と連携した防災訓練の実施、認知症サポーター養成研修、健クラ祭のボランテア協力、オレンジカフェの開催、運動会の応援、冬場のさいの神では小学生の訪問等、地域との繋がりを大切にしながら交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症カフェ」を毎月開催し、その時間で認知症予防についての講話や、認知症サポーター養成講座も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回実施し、入居状況や行事の内容など発信している。近隣の施設の方々から施設運営についての助言を受けサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、行政の職員、区長、民生委員、近隣特養の長、地域包括支援センター職員、交番駐在員、事業所からは所長が参加し、会議録も整理されている。家族については全員に文書で案内しているが参加者は少なく、居られない月もあるとのこと。会議内容は利用者の状況、行事の報告等、意見、助言を頂き、事業運営や利用者支援に活かしている。	会議は定期的に開催されており事業所に係る関係機関や区長、民生委員等主要なメンバーの参加により有意義な意見交換の場となっている。しかし主体となる家族の参加が少なく、居られない月もあることから、今後は地域密着事業所本来のあるべき姿を確認しながら、家族が会議に参加し易い工夫等、更なる検討に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や日頃から包括支援センター・行政の窓口の方々より助言してもらっている。	市職員より運営推進会議に参加してもらい、困難事例の相談や日頃からの連絡等を通して助言をもらうなど良好な協力関係にある。また地域包括支援センターとは入所等に関しての情報を共有しながら相談し易い関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関には施錠を行っていない。委員会を設置し、マニュアルの確認、勉強会の実施している。	身体拘束廃止委員会があり、法人全体で学ぶ機会を持ち、新人については入職時に行っている。マニュアルや研修会参加記録も整理されており、最近では9月に行っている。ユニット玄関の施錠や階段付近の柵は設けていないとのことである。センサーの使用については、「センサーマットの見守り、意義と役割」と言う手順書に添い、現在6名の方が使用されている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会やマニュアルがあり、勉強会に参加し理解を深め、ケアに努めている。朝礼時には「虐待防止3ヶ条」を唱歌している。	虐待防止に向け、委員会活動やマニュアルも整理されている。チェックリストは現在は使用していないが使用の方向で検討している。朝礼に早番の職員が参加し、「虐待防止三ケ条」を唱和するなど職員間での共有認識を心がけている。アンケートや投書箱の設置等、職員からの自発的発信を受けながら虐待防止への取り組みを継続している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が対応していることが多く、職員全員が周知しているとは言えない。必要な方には説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の事前訪問も含め、自宅で実施することが多い。御家族の希望により施設で行うこともある。疑問点はその都度、お聞きしてもらうように伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見をお聞きしたり、法人内で顧客満足度調査を年1回開催し、もらった意見には検討結果を返信し、ケアに活かしている。	運営推進会議で出された意見の反映や年1回の顧客満足度調査の実施、その際出された意見の回答を報告書として、家族へ文書にてフィードバックしている。具体的には野外活動の奨励や下肢の筋力低下に対応した毎朝のラジオ体操を習慣化することなど、出された意見と事業所としての対応が訪問される方の目に留まるよう、階段廊下に掲示されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を募って会議の議題を決定している。多くの職員が会議に出席し意見を言えるよう、勤務も考慮している。	今年度より働き方改革の流れに沿い、有給休暇を取得し易いようシフトの工夫を行っている。個人面談では目標値を設定し、達成度により人事考課に反映させている。資格取得については法人が実施している研修会への参加は記録に残しながら、希望者が公平に受講できるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度と合わせて能力に応じた評価と資格取得に基づき給与を査定している。その際には本人へ結果を返している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には役職別・段階別の研修制度があり、法人外の研修も促している。事業所内においても委員会や研修受講者が中心となり勉強会を開催し、毎月のように実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同じグループホームでは隔月で連絡会を実施し、お互いに施設での取組み等話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時にお聞きすると共にセンター方式を活用し、必要なことは記入し、ケアプラン作成時には生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅ケアマネと連絡を取り情報収集を行い、入居の意向をお聞きすると共に、現在の利用者の心情をお聞きしながら入所判定を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していた通所介護施設への訪問。近隣施設への親族・親戚への訪問。在宅への送迎など一人ひとりに合わせてサービス利用を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者は常に家事を行なっていただきながら職員は指導していただくことが多い。外出支援や畑仕事など入所者が率先して行えるように支援している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診先や病状によってはご家族様にも同行や受診をお願いしている。行事参加にはご家族様にも声かけし、共に楽しめるように配慮している。ご家族様も内容によって来所されてくださっている。	毎月の請求書と一緒にお便りや写真を同封し、生活の様子を伝えている。近隣の診療所への受診は職員が対応しているが、その他については家族に同行お願いをしている。町主催の行事に出掛ける際は、家族の協力を得ながら共に楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺など、馴染みのある場所などを選び外出支援を行っている。地域のスーパーに買い物にいくことで、知り合いに会える機会が多い。	近隣への外出や食材の買い出しに馴染みのスーパーに出掛けることを楽しみとしている。また入所面接時には本人が大切にしていることや、趣味、交友関係等の情報収集を丁寧に行い、これまでの付き合いが途切れない様関係性の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席には利用者同士の関係性に配慮しいる。誕生日には各個人ごとに誕生日会を開催し、それぞれが主役となる場を提供するとともに、利用者同士の交流も促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が主に隣接された特別養護老人ホームに入所されることが多く、訪問に出かけお会いする機会もある。また、ご家族様も家で採れた野菜をお持ちいただくこともある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、アセスメントを行なっている。モニタリング時にはご本人も参加し、本人主体のケアプランになるように努めている。、	面会時や入所時の聞き取りなど、また担当ケアマネージャーからも聞き取りを行い、これまでのケアプランも参考にセンター方式を用いて、思いや意向の把握に努めている。今後も本人のやりたいと思う気持ちを大切にした事例として、「本当は料理を作りたかった」と言う利用者の思いにより添う支援が出来ていた。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談では生活歴などをお聞き、しセンター方式を活用し、情報収集した内容を職員間で共有している。	本人や家族、担当ケアマネージャー、他事業所からの情報をもとに管理者、計画作成者が暫定プランを作成し、入所時に本人、家族と共にサービス担当者会議を開催している。これまでの生活の継続や今後の希望についての把握に努めている。また6ヶ月に1回のモニタリング会議の席では職員からの聞き取により希望や思いの把握に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	や	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課やその方のできること、できないことを職員間で話し合い、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1度モニタリングを実施し、ケアプランの見直しを行なっている。状態に応じてサービス担当者会議を実施し、対応を検討している。モニタリングの際には必ず、本人・ご家族の意向を確認している。	職員はモニタリング項目をチエックし個別記録、6ヶ月ごとの見直しを行っている。できるだけ利用者の意向を聞きとり、日々のケアの中で、本人の満足度から課題を見つけていくよう計画作成担当者は対応に努め、サービス担当者会議を開催している。	利用者の意向や満足について聞き取りし、家族にも意向を確認しているが、電話等で行われている場合もあり、職員参加でサービス担当者会議が実施されている現状が窺える。今後は、本人、家族、医療関係者や地域の方など、その利用者が、よりよく暮らしていくために必要な視点や支援が得られ、それぞれ意見交換や意向の確認を共有できるようなサービス担当者会議の開催が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは毎日実施記録に落とし、プランに沿った内容を生活記録に記載している。その内容をモニタリング時にケアプランに活用出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて外部受診や入院支援など職員が代行し、行なっている。柔軟な支援が行えるように適宜ミーティングを実施し、対応を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室やスーパー、商店など、出来る限り本人の希望に沿えるように対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関も含め、在宅時からのかかりつけ医師とも継続し、対応。夜間や緊急時にも対応している。	隣接敷地にある診療所に受診している方が多く、往診や他の医院の受診の利用者も居られるとのことである。「受診・入退院時一覧表」に受診する利用者の状況や連携が取れるよう努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取得。併設しているDSの看護師と常に調整を取りながら必要時には相談・助言・処置等、常に協力をお願いしている。看護師は入居者一人ひとりの状態も把握しており、力強い体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な相訪問や入退院時にはご家族の了承のもと話し合いに参加させてもらっている。病棟の看護師からも情報をいただくことも多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の確認の他に状態変化に応じて、その時のご家族の気持ちを配慮しながらお話しを必要に応じて、お聞きするようにしている。 看取り指針を説明し、住み替えについても適宜話しあっている。	今年度初めて看取りの実践があり、最後まで対応することができた。今までは住み替えなどの話し合いもあったが、今回、看取りの状態の変化や兆候などの勉強会をするなどして、最後まで行うことが出来た。その都度の状態を記録、家族と共に話し合い、利用者・家族が安心されている様子から多くのものを学んだと管理者も職員と共に感じている。今後もより一層、具体的な看取りフローチャート作成の必要性を感じ取り掛かっている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練や救急救命の講習会に参加するとともに急変時には対応できるように施設での全体会議の際に全部署にて勉強会を実施している。急変時のマニュアルもある。	発見時・急変時のマニュアル、フローチャートがあり、見直しも行われている。研修も具体的な形で行われており、同じ建物にあるデイサービスの看護師への相談等も効果を得ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害の教訓を活かし、法人全体にて近隣施設への協力・避難体制を確立している。地域の方々からは常に気にかけていただいている。	今回の訪問調査直前、台風による近くの河川水害が予測され、法人本部と相談・判断にて、同法人の施設に利用者全員が避難し翌日戻る体験を実施された。管理者は隣接デイサービス職員の運転などの支援を得ることができたこと、利用者も落ち着いていたのは、先月利用者4名が参加し、施設全体で他の施設に避難する訓練をしていた。今回、受け入れ側も全て準備が出来ていて利用者は落ち着いており、訓練が生かされたと振り返った。地域の方とも連携し、年4回防災訓練を実施に参加している。今後も備蓄品の場所の見直し等、委員会と共に検討しながら継続して行きたいと話し合っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為に入居時には面会や広報誌等の掲載、買い物などの外出について意向確認を行なっている。職員は入居者の声かけについて自己決定を行いやすいような声かけを行なっている。	プライバシーに関するマニュアルや研修は法人の新人研修や事業所の職員研修で行われており、事業所内でも参加した職員による伝達研修が行われ、今年度も職員の行動規範など職員室内に掲示し、理念の確認と不適切ケアにならないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服を選ぶことや入浴の提供に対してもご本人の希望に出来るだけ沿うように実施。居室担当中心に入居者の思いや希望を常に確認し、個別援助に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプラン作成時にも本人の希望を入れ、対応。食事の提供も希望があれば一人ひとりに合わせて時間変更にて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみの支援の他に、ご希望の美容室など利用できるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに応じてメニューを個別に提供するなどしている。食事作りや片付けは常に一緒に行っている。	利用者の意向や希望を入れながら、1ヶ月ごとに職員が献立を立て、隣接のデイサービスの管理栄養士に見てもらいアドバイスを得ている。利用者は毎日の買い物や下ごしらえ、片付けに参加し、テーブル隣の方へ「さあ食べましょう」や「おいしいね」と頷きあうなど、食することへの促しやそれぞれの利用者同士の役割を自然に行っており、職員はそれらを見守りながら適切に支援している。利用者は回転すし等への外食も楽しみにしており、食べる楽しさを大切にしながら日々の支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形態について随時、検討し、管理栄養士の助言のもと献立を立てている。必要性のある利用者には食事量、水分摂取量をチェックし、一定の量を提供できるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシの他に舌ブラシを使用し、食事が美味しく食べれるように対応している。食後はご本人が行なったあとに確認の為、職員が見直し、支援している。必要な方には歯科の往診を受けるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握している。自立支援を念頭に置き、一人ひとりに合わせた排泄の介助をおこなっている。	トイレはきれいに清掃され広さも2種類有り、利用者の状況に合わせて、気持ちよく利用できるように工夫されている。利用者それぞれの排泄パターンを把握し、誘導の頻度やパット交換などを検討しながら誘導している。朝牛乳を飲むことや野菜多めの食事などの配慮を行いながら支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方には起床後の牛乳の提供などをケアプランに入れ実行している。毎日ラジオ体操を行っており、多くの利用者が参加できるよう促している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の気持ちに合わせ、実施日を決める。利用者の希望があればその希望にあわせて入浴の支援を行っている。	およそ週2～3回利用者の希望に合わせ入浴支援を行っている。見守りの方から必要に応じて二人介護や同性介護など状態にあわせ支援し、入浴剤などで気分を楽しめるよう実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室で横になる方もいれば、ベッドをご本人に合ったベッドで対応できるように支援している。毛布や枕、布団なども在宅より持ち込み使用している方も多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更の際には必ずミーティングや記録で全員に周知している。薬局でもらう薬の効能が記載されている用紙はすぐに確認できるように保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時及びアセスメントの時には生活歴を確認し、一人ひとりが役割を持って過ごせるように対応している。利用者のできることや趣向に合わせたレクリエーションを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の支援を全員に行うことは難しいが、外出の希望があれば買い物や散歩など実施している。遠方への外出や買い物など、計画的に実施し対応している。	利用者の毎日の食材料買い物同行は楽しみにしている方も多い。また、事業所がある2階から、1階にあるデイサービスへ、一部車いす等エレベータ使用の方もおり、利用者は必要な支援を得ながら、階段をゆっくり上り下りの移動を行い、デイサービス利用者と一緒にラジオ体操に参加し交流を深めている。これらの取り組みは、今回の水害の避難行動やトイレへの移動、ユニットの行き来や毎日の日常行動にも良い効果を表していると管理者はじめ職員は感じている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方へ確認し、所持の有無を決定している。買い物は立て替えをしていることを話し、買い物の際には本人より選んでもらって購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。ご家族様やご親戚から贈り物が届いた際にはご本人に電話を変わり、お話しできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気が保てるように、また暗すぎて危険の無いように照明には配慮している。季節の花の装飾や和室は自宅のように過ごせるようにテーブルを置き、対応している。	開設13年目の事業所であるが、明るく清潔に整えられている。ソファーや畳、冬場のこたつコーナーなどがあり、季節の花を育て、窓から見える自然と共に、所々に緑や花を飾っている。フロアが居場所の事業所の愛犬「しじみ」への話しかけや面倒を見たり、話題にする様子が居心地良く感じられ利用者はゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・ソファ・食堂など、お好みの場所で談笑されている。ユニット間も移動し、自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に希望を聞いて慣れ親しんだものは出来るだけ、お持ちしてもらうようにしている。生活の中で必要なものは家族と相談しながら取り入れている。	自宅での生活が継続できるよう使い慣れたタンスや趣味の道具などが持ち込まれ、利用者が生活しやすいよう暮らしている様子が窺えた。それぞれの居室入り口には「花の手芸額」が目印のように掛けてある。また、防災用・災害時の搬送等の表示があり、職員の安全への配慮や工夫が目立たない形ではあるが、住みやすさと安全性が丁寧に検討されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	インシデントレポートを基に安全な環境作りを行っている。歩行能力の低下している利用者はトイレに近い居室など、状態に応じて居室の場所を変更していただくこともある。		